

88年の旅は“Yes” “Yes”のモンタージュ

～出会えた数えきれない人々に感謝～¹

柳田邦男

皆様こんにちは。柳田です。ロゴセラピスト協会という、私は逆に話を聞きたいぐらいでの気持ちです。ヴィクトール・フランクルの著書は愛読書のひとつだし、よく知られる言葉の数々が私に染み込むほど影響を受けています。

今日は、私が88年という歳月を生きてきたなかで、どのように、生きること、死ぬこと、生と死に出会い、考え、自分自身の死生観や人生観を持つようになったのか。そういう私個人の人生を底辺に置きながら、作家としていろいろな人に出会い、取材をし、執筆活動をして、自分なりに考えをまとめてきたことを重ね合わせてお話したいと思います。

1. 人は「物語を生きる」存在である

心の問題について、私が影響を受けた先生がおられます。ユング派の心理学者である河合隼雄先生です(1928-2007)。河合先生がよくおっしゃっていた言葉が、「人間は物語らないとわからない」。

私自身も、ノンフィクション作家として活動しながら、実際に生きた人間のことや、あるいは事件や災害や戦争と出会うなかで人はどう生き抜くのか、人生の意味をつかんでいくのか、そういうことを考える上で、「物語」というとらえ方がとても大事だと感じていました。これが河合先生の言葉と重なり合ったのです。